

葉の構造. 植物研究雑誌. 42: 65-73. 5) 立石新吉 1969. ツバキ類の葉の組織中に介在する異型細胞について. 植物研究雑誌. 44: 40-47. 6) 立石新吉・萩屋 薫・石沢 進 1970. ヤブツバキ, ユキツバキ及びその中間型ツバキの葉の組織学的差異, 特にその分類学への応用. 植物研究雑誌. 45: 53-64. 7) 桐野秋豊 1970. 春サザンカの文献紹介と形態学的観察. 椿特輯. 10: 17-54 (京都園芸倶楽部). 8) 日本ツバキ協会編集 1972. 現代椿集 (講談社).

Explanation of Plate IX

Pl. IX Cross sections of the leaves of *Camellia sinensis* (1, 2), *C. sasanqua* (3, 4) and their hybrids (5, 6) respectively. arrows: lenticular cells. (1, 2, 3, 4 & 5) × ca. 120, (6) × ca. 400.

○高等植物分布資料 (81) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (81)

○マツバラ *Psilotum nudum* Griseb. 関東以西の本州・四国・九州から知られているが, 筆者らは 1972 年 11 月 4 日, 宮城県牡鹿半島桂島 (石巻市竹ノ浜) の暖帯林床で採集した。わが国における分布の北限となる。ちなみにこの小さな島は, アカマツ林とタブノキ林が半々で周囲にイブキが多く, マツバラの生育点を含む周辺 10 m 四方の所生植物および被度は次のとおりである。

高木層: タブノキ 5, モチノキ 2, フジ 1, キツタ +。亜高木層: タブノキ・モチノキ・トベラ 2, シロダモ・キツタ 1。低木層: タブノキ 3, シロダモ・トベラ・ツルマサキ 1, エノキ・ヤブツバキ +。草本層: キツタ 3, ヤブコウジ・シロダモ・ジャノヒゲ 2, トベラ・タブノキ・ツルマサキ 1, カシワ・ヤブサンザシ・オオバイボタ・マルバアオダモ・ミツバアケビ・ヤマカシユウ・エノキ +。

採集したのはただ 1 体であったが, 植生の状況から自生と見て間違いなさそうで, 詳しく捜せばさらに見つかると思う。なお, 標本 (No. UE8943) は国立科学博物館に納めてある。 (宮城県石巻市 佐々木豊, 同白石市 上野雄規)

正 誤 (Errata)

	頁 (Page)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
Vol. 48	171	23	presence	absence